

## 明德義塾中学校・高等学校

新シリーズ：「International Boarding School」で学ぶ 第5回

### エッセー・ライティングの指導について

広報入試部長 高橋 聖

明德義塾高校では2010年度より、特別進学コースⅠとⅡの生徒を対象とした「エッセー・ライティング」を選択授業としてスタートさせました。今回はエッセーの指導を導入した経緯と取組の内容についてご紹介させていただきます。

尚、今回取り上げる「エッセー・ライティング」は、日本でよく見られる、意見や感想を自由な形式で述べる散文形式ではなく、5つのパラグラフで構成された5パラグラフ・エッセーを指しています。

#### 導入に至る経緯

明德義塾は、バンコク・台北・香港・上海・シンガポールなどの東南アジアを中心とした日本人学校に在籍する生徒、言うならば日本の文部科学省が定めた教育課程と同じ教育を受け、さらには在外の学習塾において、日本の国内と同じ質の受験勉強を受けてきた生徒を中心に、帰国子女受け入れの取組をスタートさせて来ました。

そのため、日本人学校の生徒を中心とした帰国子女の受け入れを行っていた当初は、日本の殆どの学校で未導入のエッセー・ライティング指導に必要性を感じることはありませんでした。

しかし、バカロレア教育（International Baccalaureate）を導入しているインターナショナルスクールや、北米の現地校からの生徒の受け入れが始まるにつれ、エッセー・ライティング指導の導入の必要性が明德義塾でも大きくクローズアップされる事となりました。

インターナショナルスクールや、北米の現地校で学ぶ生徒が身に付ける力として、「論理的に相手を説得する事が出来る」力、「読む」・「考える」・「発表する」力、があげられます。

残念ながら、それらの力は現在の日本の生徒において比較的弱いと言われている部分でもあります。

勿論、「読む」・「考える」・「発表する」力は、全ての教科を学ぶ上で共通して求められる技術であり、科学的に学問をする為に不可欠なものです。

インターナショナルスクールや、北米の現地校では全ての生徒に対し、勉強（学問）の継続、発展に必要な基本的技術の習得を目的として、エッセー・ライティングの指導に取り組んでいる事が、海外からの生徒を受け入れていく過程で次第に理解されるようになりました。

エッセー・ライティングの指導を引き続き明德義塾で受けられる仕組みを構築することは、彼らの「読む」・「考える」・「発表する」力を、明德義塾で更に伸長させる事を可能とする事を意味します。

エッセー・ライティングの指導の導入についての必要性は疑いの無いものとなります。

#### なじみの薄い書く技術「エッセー」

さて、日本の国語教育の枠組みの中で、書く力を育む為の代表的な取組としては、起承転結をその基本構文とする「作文」が挙げられます。また、報告用の文章を書くためには5W3H（Why・Where・What・How Many・How・When・Who・How Much）をその枠組みとする文章の作成についての指導も行われます。更には、大学受験を控える頃となると「小論文」に対する取組も時間に追われながらスタートします。

実は、インターナショナルスクールや、北米の現地校に子供を通わせている保護者の中にも、保護者自らが日本で習得し



タイとベトナムからの留学生：甲子園での応援